

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉佐野市住吉町29番2	氏名	ケイエス冷凍食品株式会社 代表取締役 久田 貴之
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		冷凍食品（冷凍ミートボール類）を主体に生産		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,416 t-CO ₂	6,325 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,863 t-CO ₂	6,787 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	6.6 %	2.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.4 %	2.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量(12445))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>社用車はハイブリッド車両や低燃費車両に順次移行中。事務所や工場等照明器具更新時には、LED器具や高効率器具へ更新中。一部人感センサー等設置しエネルギー使用量削減に取り組む実施。また、生産ライン冷凍機台数制御計4機中3機を運用開始。主に3機中2機は年間通じ制御停止出来るが1機は中間期のみ制御停止で運用している。その他生産機器では高効率モーターへの更新を実施している。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

社内で社長以下役員クラスを含め経営会議（温暖化防止、省エネを含む）を実施の中で進捗状況の報告している。
 また、ISO14001を2011年12月に認証取得以降、毎月の工場環境会議でエネルギー使用原単位ベース削減目標を掲げて推進している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	泉佐野工場	コード (1114) 蒸気トラップ の整備、保温	蒸気トラップの整備、ドレン回収ラインの整備、保温し熱ロス削減。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	泉佐野工場	コード (1218) 照明器具間引き	工場包装エリア、事務棟照明器具の間引きと消灯（約50灯）、高効率化機器更新。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	泉佐野工場	コード (1225) 物流倉庫デマ ンド制御	物流倉庫デマンド制御システムの変更に より不要な運転を制御継続。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	泉佐野工場	コード (1112) エネルギー使 用量把握測定 機器推進	工場使用エネルギー、事務棟電力の把握 する為測定機器の推進、設置。管理標準 書作成。流量計、電力量計設置準備中。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	泉佐野工場	コード (1114) 生産設備冷凍 機台数制御	生産設備冷凍機の台数装置を設置し、冬 季期間の制御を行う。46,464Kwh/年 (22Kwh×4台×8時間×22日稼働×3カ 月)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ 推進	アイドリングストップ推進継続中。 経営会議、工場環境会議で啓蒙する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導 入	ハイブリッド車両へ随時移行。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル	氏名	株式会社ケイ・オブティコム 代表取締役社長 藤野 隆雄
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・電気通信事業 ・有線一般放送事業 ・小売電気事業 ・電気通信および有線一般放送に関する機械器具および設備の設計、設置、販売、賃貸および保守管理 <p>◆設立 昭和63年4月2日 ◆資本金330億円</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	32,595 t-CO ₂	29,481 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	37,190 t-CO ₂	33,672 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.2 %	14.1 %	25.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	14.3 %	25.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (利用顧客数)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>お客様(利用顧客)の増加に伴い通信設備を増設したが、収容整理を鋭意進め、旧型通信設備を停止および撤去したため、原単位ベースで基準年度比25.4%削減できた。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>・省エネ推進WGを設置し、エネルギー使用量や省エネの取組みについて情報共有を行うと共に、「ケイ・オプティコム エコアクション」を毎年策定し、事務所電気使用量削減、車両燃費向上、コピー用紙使用量削減、再生利用コピー紙購入などに取組んでいる。 ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会が定めるガイドラインに則り、電気通信事業者として適切に省エネによるCO2排出削減に取組み、H25年3月よりエコICTマークを取得している。</p>
<p>・電気通信事業用設備においては、利用顧客の収容変更により旧型通信設備の集約・撤去、省エネ型空調設備への置き換えなどに取組んでいる。</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	各オフィス	コード(1126) 一定時間・従業員不在箇所の消灯	従業員不在箇所の消灯について周知を実施。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	各オフィス	コード(1113) 空調機の運転管理の厳正化	空調機の運転は執務時間内のみとし、延長が必要な場合は管理箇所への申請を必要とする運用を実施。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	各通信局舎	コード(1126) 一定時間・従業員不在箇所の消灯	従業員不在箇所の消灯について周知を実施。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	各オフィス	コード(1113) 事務機器類の動作不要時間のOFF励行	従業員に対し執務室最終退出時の事務機器類の電源OFF等を実施するよう社内規定に明記。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	各オフィス	コード(1113) 従業員に対する環境問題への意識啓発	従業員が利用するPCで起動時に環境問題への取組を推進するメッセージの定期的な掲載	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	各オフィス	コード(1113) 空調機温度設定についての周知	オフィス内の空調温度の設定見直しについて周知	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	各オフィス	コード(1112) オフィス電力使用量、車両燃料使用量報告	オフィスにおける各四半期ごとの電力使用量、車両燃料使用量の定期報告を実施。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	各通信局舎	コード(1216) 省エネルギー型空調設備の採用	省エネルギー型の空調設備への取替え	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	各通信局舎	コード(1126) 直流電源システムの導入	新設局舎において直流電源システムを導入する。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	各通信局舎	コード(1126) 小規模通信局舎の統廃合	複数の小規模通信局舎の統廃合を行う。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全箇所	コード(2123) アイドリング ストップ等運 転時での排出 規制	エコドライブやアイドリングストップに ついて周知を実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全箇所	コード(2122) 出張時の公共 交通機関の利 用促進	出張について業務上必要な場合のみ自動 車を利用するようにしている。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区飯田橋3-10-10	氏名	KDDI株式会社 代表取締役社長 田中 孝司
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>個人のお客さま向けには「au」ブランドのもと、移動体通信（au携帯電話）事業と固定通信（ブロードバンド・インターネット/電話）事業を展開し、シームレスにつながる新しい通信環境の実現に貢献しています。また、法人のお客さまには、FMCネットワークからデータセンター、アプリケーション、セキュリティ対策まで全てのICT領域でサービスを提供し、ビジネスを強力にサポートしています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	43,475 t-CO ₂	46,155 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	47,356 t-CO ₂	50,646 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
		-79.3 %	-1.4 %	4.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-1.6 %	4.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (契約数 au契約数+ブロードバンド契約)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>KDDI大阪第2ビル(平成27年竣工)の本格稼働により、当該ビルの消費電力が大幅に増加したが、その他ビルにおいては、温暖化ガス排出の抑制することができている。全体の排出量は増加したものの、原単位ベースの評価においては、4%を超える減削となった。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

KDDIグループでは、総務・人事本部長を委員長とし、各本部・事業所・総支社・グループ会社・関連団体から選任された委員で構成される「KDDI CSR・環境委員会」を中心に環境保全活動の推進体制を構築しています。また、関西地区では、関西総支社を中心とした「関西地区KDDI環境委員会」による推進体制のもと、基本方針の進捗管理を実施しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	福島NC	コード(1215) 通信用電源設備の整理	負荷設備がなくなる30KVA UPS設備1台の電源を平成21年度に停止。平成24年度以降も継続して停止する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全局舎	コード(1215) 通信用電源設備の整理	使用負荷電流が減少し、増設負荷が無い整流器設備において、ユニットの削減及び巻き取りを検討中。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪ビル 大阪第2ビル	コード(1113) 省エネ法に基づく管理標準の順守	①不要時の停止②稼働台数の調整③適正メンテナンスによる効率低減化の防止④最大電流の低減化等空調設備、通信設備等の適正稼働	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1216) 空調設備の更改 冷却塔の更改	平成21年度に熱回収型ターボ冷凍機1式をチラー型冷凍機へ更改。H26年度冷却塔の更改実施。平成27年度以降も継続して運用する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪第2ビル	コード(1215) 省エネ設備 平成27年度で完了	照明器具のLED化。 平成27年度で完了	27年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全局舎	コード(1216) 通信機械室の 負荷設備によ ての温度変更	通信機械室は、負荷設備に適したエリア毎の空調温度変更を実施。電力設備室等の温度設定を変更。平成27年度も継続して実施する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1218) 省エネ設備	照明器具のインバータ化済み。 85千KWh/年 削減。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪NC	コード(1216) A棟空調設備 の更改	A棟空調機を更改済み。 1,200千KWh/年 削減。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪第2ビル	コード(1215) 電源設備の導 入	効率的な電源設備の導入	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪NC	コード(1215) 直流電源設備 の更改	1～3系直流電源設備/4～5系直流電源設備を平成21年度に更改。平成27年度も継続して運用する。 570千KWh/年 削減。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1216) 給排気設備更 改	給排気設備を更改済み。 60千KWh/年 削減。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

12	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1216)	冷水槽・温水槽ポンプを更改済み。 60千KWh/年 削減。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		空調用水槽ポンプの更改		
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1215)	電力・空調監視設備を平成21年度に更改済み。平成27年度も継続して運用する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		電力・空調監視設備更改		
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	千里NC	コード(1215)	4階交流設備の新設、統合を平成22年度に実施済み。平成27年度以降も継続して運用する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		交流設備新設統合		
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1216)	空調等熱源設備の更改。 1,900千KWh/年 削減。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		空調等熱源設備更改		
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1216)	5階北空調機の更改および新設。 15千KWh/年 削減。 新設工事実施中。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		空調機更改及び新設		
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1216)	B1階電力監視室空調機を平成21年度に更改。平成27年度以降も継続して運用する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		空調機更改		
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1218)	平成20年度から外灯用電力として太陽光発電システム導入。平成27年度以降も継続して運用する(クリーンエネルギー利用促進:年間29.4t-CO2削減)。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		太陽光発電システムの導入		
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	大阪ビル 大阪第2ビル	コード(1113)	有人の事務所においてクール・ビズおよびウォームビズを継続実施中。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		空調機運転管理		
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1113)	荷物用大型エレベーター運用効率化による消費電力の削減実施中。平成27年度以降も継続して運用(年間0.506t-CO2削減)。平成23年度から客用エレベーター運用効率化を平成27年度も継続して運用	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		エレベーター運転管理		
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1113)	飲料自販機のディスプレイ消灯による消費電力の削減実施中(年間6.91t-CO2削減)。平成27年度以降も継続して運用。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		飲料自販機消灯		
	レ	平準化				
22	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1113)	地下駐車場換気ファンの運用見直しによる消費電力の削減を実施中(年間7.810t-CO2削減)。平成27年度以降も継続して運用する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		換気ファン運転管理		
	レ	平準化				
23	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1218)	1階エントランス、EVホール、トイレ等の照明用管球をハロゲンからLEDに変更。平成27年度以降も継続する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		照明設備の一部LED化		
	レ	平準化				
24	レ	GHG排出	大阪ビル	コード(1113)	冷水用揚水ポンプの運用見直しによる消費電力の削減を実施中(年間221t-CO2削減)。平成27年度以降も継続して運用する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱		冷水用揚水ポンプの運転管理		
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	大阪ビル他	コード(2123) エコドライブ及びアイドリングストップなど	低燃費車の導入や、エコドライブ及びアイドリングストップを推奨して、運転日誌によるチェックを行っている。	27年度 ～ 29年度
	レ				

2	レ	GHG排出	大阪ビル他	コード (2122) 関西エコオフィ ス宣言	関西エコオフィ ス宣言 クールビズ、ウ ォームビズ、節 電、節水の励行 、自動車利用の 抑制（電車通勤 の奨励）、紙ご みの削減と再資 源化	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全局舎	コード (2199) 天王山森林保 全ボランティア 活動を開催	森林環境保全活 動 天王山での森 林保全活動	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区大手前1-7-31	氏名	京阪建物株式会社 取締役社長 三浦 達也
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		不動産賃貸業、展示ホール・会議室の運営、駐車場の経営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,635 t-CO ₂	7,965 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,435 t-CO ₂	8,784 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (26 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	0.6 %	-3.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.6 %	-3.2 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (共用部面積+入居面積) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
---	--

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

平成28年7月～10月の冷房負荷増加の為、電気、ガス共に使用量が増加したため、排出した温室効果ガスが増加したと思われます。	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネ法に基づき管理体制によりエネルギー管理を行っている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	OMMビル	コード (1122) 個別空調化の 推進	17階フロア整備工事に伴い既存の ファンコイルユニットを撤去し、最新の ビルマルチエアコンへ更新。平成30年度 完了	29 年度 ～ 30 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区大手前1丁目 7番31号	氏名	京阪電気鉄道株式会社 取締役社長 中野道夫
特定事業者の主たる業種		80娯楽業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		遊園地 大正元年にこの地で菊人形を開催したことを起源とするひらかたパークは、長い間「ひらかた大菊人形」などで親しまれてきた。平成7年から「花と緑と水そして光」をコンセプトに大規模なリニューアルを実施、より一層魅力のある施設となった。更に環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を日本の遊園地で初めて取得し、子供たちに夢を与える施設として環境にやさしい事業活動を展開している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,761 t-CO ₂	3,789 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,284 t-CO ₂	4,295 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-1.4 %	-0.8 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.1 %	-0.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

平成28年冬季に、遊戯施設ラグーンを休止し、改装工事に着手している。照明器具は、全てLEDを導入する予定。また、同時期に遊戯施設キッズスクエアも撤去したため、空調及び照明電力が削減される。跡地はプール利用客の休憩スペースとなる予定であるので、夏季期間限定で照明負荷のみとなる。なお、現状として入場者数が増加しているため原単位ベースでの削減率を選択すれば削減目標は達成可能と思われるが、消費エネルギーと入場者数が比例していないので入場者数が減少に転じた時に原単位の数値が大きく跳ねあがる恐れがあるため	
排出量ベースでの報告を継続したいと考える。	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

平成12年9月に日本の遊園地で初めて取得した「ISO14001」環境マネジメントシステムが要求する、環境に係る法律や条例を遵守しながら、電気、水、ガス、紙、油脂の使用量の削減を各シーズン終了毎に開催している環境会議において審議推進していく。この体制の継続が「温室効果ガス」及び「人口排熱」の抑制に繋がるものとする。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード(1111)法の順守、関係者全体への周知	環境に係る法律や条例等を順守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し、更なる向上を図る。アルバイト従業員等の入れ替わりがあるので、漏れのな	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード(1113)閑散時の遊戯機運転	負荷の状況(入園者数)に応じて稼働(運転)台数の調整を続ける。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード(1218)既設照明のLED化	特に点灯時間の長い照明器具からLED化を推し進める。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード(1199)夏季電力需要期における遊戯機の停止	夏季日中の電力需要時間帯に、各大型遊戯機を輪番制により1時間程度休止させる。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	京都市南区東九条南石田町 5 番地	氏名	京阪バス株式会社 代表取締役社長 鈴木 一也
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 1 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 2 号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 3 号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般乗合および貸切旅客運送事業を行っている。バス保有台数は、全社で 6 2 7 台うち大阪府下に 3 4 0 台を有する。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	13,189 t-CO ₂	13,999 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	13,287 t-CO ₂	14,083 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (26 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-2.6 %	-6.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	-6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>運行計画の変更等により、走行距離が増し、排出量も増えてしまいました。大阪府下においてはすでに全車を排ガス規制適合車に代替済みであり、アイドリングストップなどの指導にも徹してはいますが、車両 1 台あたりの燃費はなかなか向上しないのが現状です。今後も、低燃費車両への更新や運転技術の向上に努めます。なお、行政におかれても渋滞の解消など、道路の走行環境改善に努力していただきたい。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>・全社的に温暖化対策に取り組むため、環境マネジメントシステムを導入し、管理指導している。</p>					
---	--	--	--	--	--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1215) エコオフィスの推進	冷暖房の適温化、照明の適正使用等により、電力使用量を削減する。 (全社にて、H28年度実績は、H27年度比2.7%増)	27年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				29年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの推進	アイドリングストップを含むエコ運転の実施に取り組む。	27年度
	レ	人工排熱				～
						29年度
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 燃料使用量に関するデータ管理	車両ごとの燃費を毎月算出し、管理している。	27年度
	レ	人工排熱				～
						29年度
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2111) 推進体制の整備	全社での環境マネジメントシステムの導入により、推進体制を整備・強化している。	27年度
	レ	人工排熱				～
						29年度
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) バス低燃費車の導入	バスについて、最新の排ガス規制車を順次導入することにより燃費の向上を図り、燃料使用量の削減に努めている。 (全社にて627台中623台 (99.4%) 導入)	27年度
	レ	人工排熱				～
						29年度
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2114) バスの適正な維持管理	法定では3ヶ月ごとの整備点検を、自主的に1.5ヶ月ごとの実施し適正な維持管理に努めている。	27年度
	レ	人工排熱				～
						29年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	守口市河原町8番3号	氏名	株式会社 京阪百貨店 代表取締役 辻 良介
特定事業者の主たる業種		50各種商品卸売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		百貨店として、大阪府内に5店の出店を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日	～ 平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	18,207 t-CO ₂	17,381 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	20,506 t-CO ₂	19,518 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	4.6 %	4.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.8 %	4.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (賃貸面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

平成28年度抑制対策実施状況について産業・業務分野1～4及び自動車分野1を実施した。削減状況については、産業・業務分野で節電意識の高揚により、削減となった。結果として基準年度と比較して901t-CO ₂ の削減となった。	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的にエネルギー使用量について目的目標を定めて取り組んでいる。問題事項については環境委員会で改善等を検討することとしている。また、守口店・他店ともIS014001に代わる京阪グループ環境マネジメントシステムの運用により、継続的な温暖化対策が行われるようシステムを構築し、平成28年度からの運用開始している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全店	コード (1111) 京阪グループ環境マネジメントの推進	環境マネジメント (IS014001) (現京阪グループ環境マネジメント) の内、環境改善計画推進による電気、ガス使用量の削減 (CO2排出量 10t削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	守口店	コード (1218) LEDの採用	スカイビームからLED電球への取替による電気使用量の削減 (550台) (CO2排出量 101t削減)	27 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	守口店	コード (1218) 高輝度誘導灯の採用	直管蛍光灯使用の誘導灯を高輝度誘導灯への取替による電気使用量の削減 (710台) (CO2排出量 93 t削減)	27 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	くずは店	コード (1218) LEDの採用	パナビームからLED電球への取替による電気使用量削減 (515台) (CO2排出量 79 t削減)	27 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	守口店	コード (1215) 高効率インバーターの採用	冷温水ポンプインバーター取付 (CO2排出量 320 t削減)	27 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	守口店	コード (5115) 営業時間短縮	営業時間短縮 (3階～6階を20時閉店を19時閉店に変更) (CO2排出量172t削減)	29 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全店	コード (2123) 京阪グループ環境マネジメントの推進	環境マネジメント (IS014001) (現京阪グループ環境マネジメント) の内、環境改善計画推進によるガソリン使用量の削減 (CO2排出量 2t削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

	届出者住所	大阪市中央区天満橋京町-1	氏名	株式会社京阪流通システムズ 代表取締役 中島 政人
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		不動産賃貸業・管理業として、大阪府内にショッピングセンター等の商業施設の経営、プロパティマネジメント事業等を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	20,773 t-CO ₂	20,023 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	24,100 t-CO ₂	23,339 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	2.3 %	3.7 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.7 %	3.2 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>夏季の空調関連では、熱源のターボ冷凍機や吸収式冷凍機(設置施設ではチラー等)の適切な稼働により効果的な節減を図り、季節の中間期には外気の活用を増やしより効果的な節減を図る。 夜間電力を有効活用して、氷蓄熱機器、蓄熱槽設備の利用による削減を図り、ナイトページなどを効果的に利用して節電を図る。 繁忙期には特に空調機器の温度管理を細かく行い、間欠運転(ピーク時カットを含め)の実施を行い、電力・ガスの使用量の削減を図る。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

推進体制と致しましては、全社的にエネルギー使用量の目標を定めており、達成状況・問題事項については環境会議にて改善策を検討することとしている。当社は京阪グループ環境マネジメントシステムを現在運用中であり、CO2ガス削減に努めております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは	コード (1111) 運用体制の合理化、管理標準の遵守	運用の合理化による消費量の削減	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・ 高架街	コード (1112) 正確な記録によるデータの把握と管理	データ把握と適正管理の実施	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・ 高架街	コード (1113) 機器の運転管理	各機器別に最適化を図り、適正に管理する	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・ 高架街	コード (1114) 適切な保守・点検	点検等を実施し、効率的な保守管理を実施する	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・ 高架街	コード (1216) 適切な運転等	空調機の適切な運転切替による効率化 吸収式・ターボ、高効率スクリーン冷凍機、GHPとEHPの効率的かつ効果的な運用	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・ 高架街	コード (1125) 配電損失の低減	不可の不均一を是正し、配電損失の低減を図る	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	天満橋・くずは	コード (1218) 機器の更新 (新設)	LED照明への切替 (新設) による消費電力の削減	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	くずは	コード (1125) 適切な運転等	大温度差送水による搬送電力の削減、ナイトパージによる冷房不可削減	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

くずはモールではヒートアイランド対策として屋上の一部緑地化、壁面の一部緑地化など環境に配慮した設計・施工を行いました。屋上駐車場の一部に太陽光発電システムを導入し館内照明の一部をまかなったり、氷蓄熱設備やナイトパーズ実施等による環境に配慮した空調を実施するなど、CO2削減と排出量の抑制を図っています。

電力使用料の削減を行うために、各施設においてバックスペース側の昇降機設備の稼働時間の制限や間引き運転などを行い、通路照明の間引きやスイッチの人感センサー化、キャノピースイッチ式等による節電等を行いました。また、既存の空調機設備の運転プログラムの細分化等を実施し、夏季・冬季の温度設定を細目に行い機器運転稼働率の削減を図り、ピークカットやGHP、ガス吸収式などの非電力空調機の優先稼働などを行っています。

最新設備のくずは南館、本館増床部分では、高効率スクリー式冷凍機やGHP空調機の採用によるピーク時の電力抑制に貢献できるほか、くずはモール全館の照明設備をLED化したことによる節電効果、その他のSC施設でも照明設備の更新に合わせLED化の計画もあり、今後は更なる削減が期待できる。

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区城見1丁目2番27号 クリスタルタワー13階	氏名	ケイミュー株式会社 代表取締役社長 野浦 高義
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、屋根材及び外壁材の製造・販売を行っており、全国に40営業拠点と製造事業所として7工場が有り、大阪府内では、本社、近畿営業部及び堺工場が事業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27年	4月	1日	～	平成30年3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	27,030 t-CO ₂	28,787 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	28,321 t-CO ₂	30,116 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (0年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0%	0%	0%	0%
	レ	削減率(原単位ベース) 3%	-1.1%	-2.1%	0%
削減率(平準化補正ベース)		-	-1.1%	-2%	0%
吸収量による削減率		0%	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(堺工場の外壁材の生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>主たる事業所である堺工場は、H28年度は原単位前年度比で電気0.4%悪化、ガス2.7%悪化しました。これは、生産能力アップのための投資を、8月と12月に行ったのですが、新たに設置した設備の立上を計画通り行う事が出来ずに、長時間のライン停止ロスが発生させてしまったためです。29年度においては、この能力アップ投資の効果で、生産能力が基準年より約3割向上していますので、削減目標をクリアする予定です。</p>	
<p>その他事業所である本社・近畿営業部門は、一部ハイブリッド車等エコカーに切替えCO₂排出低減化を図りました。</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・全製造事業所でISO14001を認証取得しており、製造事業所をベースとして全社的な環境マネジメントシステムを構築し、温暖化対策方針を各事業所で具体化しCO2削減を推進。 ・製造事業所においては、事業所毎の組織で省エネ活動を継続し、製造条件変更等をとまなう対策については、研究開発部門の支援を受け、品質に問題が無いことを確認しながら推進する。
--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード(1299) エア漏れ修理によるコンプレッサー効率化	エア漏れの修理 (コンプレッサー電力量40.4kwh/年低減) (H27年度21.1t-co2を削減した)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード(1218) 高効率場内灯の導入	水銀灯153灯をLED照明に更新した (H27年度6.3t-co2を削減した)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード(1212) ハイグロマスター導入	工場エアのドライヤーを現在の冷凍式からハイグロマスターによるクーリングタワー式に変更することで、昼間に冷やしすぎていた電力ロスを減らす。(H29年度より21.0t-co2を削減予定)	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード(1199) 2号塗装前ブロー集塵機の統合	11kwの2号塗装前ブロー集塵機を停止し、2号加工ライン集塵機に統合する。(H29年度より21.7t-co2を削減予定)	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード(1199) エア元圧低減	エアネック設備の改善によりエア元圧の低減4.3→4.2kgf/cm ² に下げる (H29年度より4.1t-co2を削減予定)	28年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード(1121) 基材乾燥空気比の改善	バーナー空気比が2以上のバーナーの燃焼ファンを下げ、下げた分だけ排気ファンを下げることで熱排出の削減 (制御システムの設計が困難でペンディング)	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堺工場	コード(1113) オートクレーブスイング条件柄別設定	オートクレーブ養生工程のスイング幅を、柄別に品質を確認しながら小さくして蒸気削減 (H29年度より25.0t-co2を削減予定)	28年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	堺工場	コード(1199) 生産性向上	生産能力を上げることで、エネルギー原単位を低減する。(H28年度より設備能力の向上工事を開始、H29年度より実績が出る予定)	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9		GHG排出	堺工場	コード(5999) 夏季昼間ピーク電力低減	7月～9月の平日13時～16時の間、ピークカット(契約)することにより夏季昼間電力使用量の低減を図る。生産性が向上したH29年度より生産計画に余力が確保される予定	29年度 ～ 29年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2123) エコドライブの実施	通勤バス1台、社用車31台のエコドライブの推進	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区道修町1-5-7	氏名	株式会社ケーエスケー 代表取締役社長 服部 保
特定事業者の主たる業種		55 その他の卸売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医薬品、医薬部外品、試薬、農薬、防疫用薬剤及び資材、工業用薬品、理化学用薬品、動物用医薬品、劇毒物、塗料、顔料、染料及びその他各種薬品医療機器等の販売を行っている。全国では支社・支店・営業所が40か所あり、うち大阪府内では12か所である。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,060 t-CO ₂	1,927 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,263 t-CO ₂	2,167 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	4 %	18.1 %	37.1 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	16.8 %	33.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>自動車エネルギー使用量については、余剰車の削減や車載器のデータを用いたエコドライブの徹底、エコカー導入、カーシェアリングの導入、走行ルートの見直し、配送業務の外部委託を一部採用した為。一般電気使用については、社内通達にて使用削減の啓蒙を行い、進捗状況を報告し現状改善について検討。建物建築時は省エネを意識した設備(LED、人感センサー等)を導入した。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的に温暖化対策に取り組むため、実態報告や改善について会議等で検討するとともに削減への取り組みを継続していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1112) 空調設備の 運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運 転制御・管理システムを運用する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) 冷凍・冷蔵庫 の導入	省エネ効果の高い冷凍・冷蔵設備に更新 する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1218) 照明設備の導 入	省エネ効果の高い照明設備 (Hf蛍光ラン プ) に更新する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) デマンド監視 システムの導 入	デマンド監視システムを導入し、ピーク カットを実施する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費の導入	自動車の更新時にトップランナー燃費基 準達成車を積極的に導入する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ の推進	全車がエコドライブを実施する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (2226) 荷物の軽減・ 配送ルート の確立	計画的な配送業務に努める。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (2114) 適正な維持管 理	日常点検、法定点検の確実な実施により 良好な車輛状態を保つ。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (2122) 公共交通機関 の利用促進	カーシェアを実施し、地下鉄やバス等公 共機関及び自転車の利用を促進する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				

6	レ	GHG排出	全事業所	コード (2226)	車載器の導入による急ハンドル・急減速・急加速・アイドリングの抑制。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田3-3-30	氏名	健康保険組合連合会 大阪中央病院 院長 大橋秀一
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般病院		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,229 t-CO ₂	3,137 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,535 t-CO ₂	3,402 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	3.1 %	2.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.8 %	3.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>電気は、省エネパッケージエアコン及びLED照明の更新により前年度使用量の3%削減できましたが、ガスについては、9月の猛暑の影響(27年9月に比べ平均気温が+2.6℃)で3%増加した結果、第1年度の3.1%から第2年度は2.9%となってしまった。第3年度は削減目標3%を達成したい。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

平成27年7月に熱源設備性能検証プロジェクトを立ち上げ、月一回ペースで熱源性能検証会議を開催し、対策の進捗状況を報告、現状改善に努め省エネに取り組んでまいりましたが、成果もでましたので、平成28年3月にプロジェクトチームを解散しました。今後は性能検証会議にて取得した技術で更に省エネに努めます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1122) 熱源運転制御の改善	27年度に空調熱源システムの搬送動力最適化制御を導入し、検証プロジェクトチームと立上げ検証、改善を実施した。 (年間65t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1122) インバータ制御の導入	27年度に空調熱源システム最適化制御導入により、熱源二次ポンプを運転せずに余剰圧活用にて流量確保の検討。(年間15t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1218) 照明設備の導入	28年度に照明器具不良個所470台をLEDへ更新実施。今後更にフロア別に順次更新予定。(年間120t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1215) パッケージエアコンの導入	28年度にパッケージエアコン43台更新実施し今夏デマンド抑制につながった。今後も重要ヶ所より順次更新予定。(年間20t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1125) 蒸気バルブの保温	蒸気バルブを保温する。(年間30t-CO2削減) 28年度は成果再検討中	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南郡熊取町朝代西1-950	氏名	原子燃料工業株式会社 熊取事業所長 伊藤 義章
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		核燃料製造及び電子線照射サービス		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,238 t-CO ₂	3,912 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,548 t-CO ₂	4,349 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3.1 %	0.4 %	-13.2 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-1.3 %	-14.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (ウラン生産量及び等価ウラン生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
基幹事業であるウラン生産量と、その他事業の売上高をウラン製造単価で除した値を等価ウラン生産量とし、それらを足したものを温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値とした。	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>トラブルのため生産が停止した時期があったが、焼結炉を一旦降温すると、ウラン生産時に必要な温度まで昇温するのに1週間から10日程必要となるため、直ちに再開できるよう降温せずに温度を維持し生産可能状態を保っていた。しかし、生産を再開するために予想外に長い期間がかかったため、生産していないが焼結炉を稼働させていた期間が長く生じた。</p> <p>以上の理由から、温室効果ガスの削減に至りませんでした。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

節電推進委員を選任し、空調温度の管理強化、照明の間引き・消灯の徹底などを推進している。また、大容量負荷の運転については節電推進委員又は電気主任技術者に連絡し、デマンド電力を確認しながらできるだけ平日昼間を避けて稼働させることとしている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1218) 照明器具の高効率化	高効率の照明器具に更新していく。 (20t-CO2を削減) ⇒H28年度は計7台実施済み、H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1216) 空調機の高効率化	高効率の空調機に更新していく。(60t-CO2を削減) ⇒H28年度は計2台実施済み、H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1113) 温度管理	冷暖房の温度を国の目標温度で管理することの徹底。(10t-CO2を削減) ⇒H28年度実施済み、H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1113) 不要時の消灯	不要な照明を消すことの徹底。(昼休み、会議室) (2t-CO2) ⇒H28年度実施済み、H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
5		GHG排出	熊取事業所	コード (5121) 運転時間のシフト	高負荷設備(流水試験装置)の運転時間を夜間・休日にずらす ⇒H28年度実施済み、H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1113) 運転停止	生産が無いときは工場建屋を閉鎖することにより、建屋への電源等ユーティリティの供給を遮断する。 ⇒H28年度実施済み、H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	低燃費車を導入する。 ⇒H28年度の導入実績なし。H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (2123) エコドライブの推進	アイドリングストップを推進する。 ⇒H28年度実施済み、H29年度継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策
